

授業アンケートに基づく授業改善の一考察

土屋 進一

はじめに

平成16年の東京都を皮切りに、現在では私立学校を含む全国の多くの高等学校で授業改善を目的とした授業アンケートが行われている。このことが、授業改善の一助となっていることは間違いないだろう。しかし、現場の声として、その結果をどのように具体的に授業改善に活かしたらよいのか、頭を悩ませている教師も多くいるのではないだろうか。

本稿では、筆者が近年取り組んだ授業アンケートの結果に基づいた英語の授業改善の具体的な方策について述べてみたい。

1. 授業アンケート結果を教師はどのように受け止めるべきか

授業の手応えと授業アンケートの結果は、必ずしも一致するとは限らない。うまくいっていると感じていたクラスの生徒の評価が思ったほど高くはなく、ショックを受けたという先生方もおられるのではないだろうか。

また、評価する生徒が、評価者としては未熟なために、辛辣なコメントを書くなど、授業が適正に評価されていないと感じることもあろう。しかし、そのすべてが的外れというわけではなく、的を射たコメントがあることもまた事実である。そこから自分の授業の実態と生徒が望んでいる授業との乖離を知ることが授業アンケートを行う最大の利点であるともいえるのではないだろうか。教師は、自身の授業を改善しながら、生徒の一定の学力を担保し、同時に生徒を良い評価者として育てていくことも必要であるのだ。

2. 授業アンケートの分析項目

筆者の勤務校では、外部の専門業者による授業アンケートを実施している。このアンケートは、授業満足度のパーセンテージだけでなく、授業満足度と指導技術の相関が確認できる、いわゆるクロス集計

と呼ばれる分析方法による結果も示される。過年度比較も可能で、教師がどの程度授業力が向上しているかも把握することができる。評価項目は、(1)意欲、(2)理解、(3)関心、(4)関心喚起、(5)予習、(6)復習、(7)学力向上、(8)好感の8項目があり、結果は、それぞれの項目の大きさを一見して比較することのできるレーダーチャートで示される。この8つの項目のうち、(1)意欲、(2)理解、(3)関心の3項目を上げることが生徒の授業満足度を上げる上で最も大切である。これらの3つの項目を上げることにより、生徒の(7)学力向上の実感を上げることができるようだ。逆に、(4)関心喚起、(8)好感を上げることはなかなか難しい。最も難しいと感じているのが、(5)予習、(6)復習である。厳しい指導によって予習・復習の時間は一時的に上がるかもしれないが、筆者には、授業の魅力でこれらの項目を引き上げ、生徒を自律的な学習者に育て上げたいという思いがある。しかしながら、まだそれが実現できていないのが現状であり、目下の課題でもある。

3. 授業改善の具体的方法

授業改善を行おうとするとき、多くの先生は、授業方法を大きく変えなければならないのではないかなと思われているのではないだろうか。しかし、生徒の声をどんな小さなことでも拾い、改善しようという姿勢があれば、改善は十分可能である。以下、先述した(1)意欲、(2)理解、(3)関心、(7)学力向上の項目を引き上げるための5つの具体的方策を述べる。

(1) パワーポイントによる授業(ICT活用)

2020年3月に発令された緊急事態宣言を受けての臨時休校期間中、オンライン授業・動画配信でパワーポイントを使用することになった(詳しくは、土屋2020a, 2020bを参照されたい)。その後、対面式授業に戻ると、多くの先生が板書を中心とした従

来通りのスタイルの授業に戻っていった。しかし、私は、パワーポイントで行う授業の良さに開眼し、対面式授業でも引き続きパワーポイントを用いて授業を行うことにした。そのことで得られた効用は次の通りである。

- ①効率性
- ②画像・動画の活用
- ③授業のアーカイブ化

①の効率性に関しては、板書の時間を大幅に削減することができ、そこで創出された時間を生徒の動きを見る時間に充てることができた。このことで、机間巡視による個別指導ができ、生徒一人一人を細かく指導することが可能となった。

②は、黒板中心の授業ではできない特徴となろう。画像の活用をすることで、生徒の理解を効果的に促進することができる。例えば、単語をフラッシュカードで発音練習する際、単語と画像を同時に提示できるので、意味を直接理解し、質の高いインプットを与えることが可能だ。また、関連動画を活用することで、本文のより深い内容理解を促すことも容易にできる。

③授業で使用したパワーポイントは、Google ClassroomでPDF化して送信することになっている。このことで、生徒が復習する際、エピソード記憶を促進し、授業をより鮮明に思い出すことが可能となろう。また、紙媒体のように紛失してしまうリスクも少なく、PCやスマートフォンなどのデバイスでフォルダにきちんと整理すれば、授業を「アーカイブ化」することもできる。

(2) 課題提出におけるタイミングの改善

本校では、コミュニケーション英語の教科書に準拠した「予習ノート」を生徒に持たせている。生徒には自分の学習スタイルに合わせ、予習・復習のどちらに使用しても良いと説明している。生徒がきちんと予習・復習を行っているかを確認するため、予習ノートの提出を求めるが、私はこの課題提出のタイミングが重要だと考えている。

以前は、定期考査前の質問・自習の時間に予習ノート2課分の学習範囲のページを開かせ、机間巡視をしながらその場で教務手帳にチェックをしていた。しかし、この方法だと生徒は、課題を貯めてしまうことが多く、付け焼き刃的な作業になってしまう生徒が少なくなかった。そこで、1課終了毎に提出を

させ、きちんと目を通すことにした。このことにより、生徒は、「一人一人見てくれている」という印象を持ったようだ。

(3) 1課毎の振り返り

生徒の理解度やどんな学びがあったかを知る機会には、教師にとって授業改善の大切な資料となる。生徒が記入した振り返りシートがあれば、授業の理解度や印象に残ったことを教師は可視化することができ、授業を行った教師への「評価」と見ることもできる。資料1に示すように、生徒は授業への自身の取り組みを選択式で自己評価し、自由記述型で、①言語面での学び、②内容面での学びの2項目について振り返りを行う。さらに、教師への要望欄に授業で改善したいことがあれば、書く。このように、教師は普段から小さな改善点を把握し、その都度、改善していくことで、生徒は自分たちの要望を教師がきちんと取り入れてくれていると感じるようになる。このことが生徒との信頼関係の構築・醸成につながる。

Lesson 10		Reflection sheet	Date: 月 日 ()
		評価項目	自己評価
1.	この課の授業に積極的に取り組むことができましたか。		5・4・3・2・1
2.	この課の授業の内容は理解できましたか。		5・4・3・2・1
3.	ペアワークにしっかりと取り組むことができましたか。		5・4・3・2・1
4.	音読活動にしっかりと取り組むことができましたか。		5・4・3・2・1
5.	リテリングにしっかりと取り組むことができましたか。		5・4・3・2・1
6.	学んだ知識(単語・表現)がきちんと頭に残りましたか。		5・4・3・2・1
7.	学んだ知識(文法・構文)がきちんと頭に残りましたか。		5・4・3・2・1
8.	家庭学習をきちんと取り組むことができましたか。		5・4・3・2・1
9.	課題提出(予習ノート・セレクト構文)をきちんと行えましたか。		5・4・3・2・1
10.	この課の授業で学んだこと・気づいたことを書きましょう。		
	【内容面】		
	【言語面】		
11.	この授業に対する要望などがあれば、書いてください。できる限り改善の努力をします！ 私には、要望が()あります・特()ありません。 ※どちらかに○をしてください。		

※この用紙は、返却されたらファイルを、1年後の振り返りに活用してください。

1年 組 番 氏名 _____

(資料1)

(4) 少人数によるパフォーマンステスト

先述した(3)の振り返りを生徒が行っている間、別

室にて6名1組で生徒を呼び、個別の音読テストを実施している。1課を終了した時点で、生徒一人一人が、きちんと音読ができているかを測る重要なパフォーマンス評価の機会となる。それと同時に、少数での指導の機会が生徒にとっては、細かく指導してもらえているという満足感につながっているようだ。

(5) ラポールの構築

ラポールとは、心と心を通い合ったつながりを意味する相手との信頼関係のことだが、これを構築することはなかなか難しいのではないだろうか。生徒が教師に対して、自分の味方であるような好感が生じ、安心感や親和感が生まれ、この先生は、私のことを見てくれ、話をしっかりと聞き、わかってくれている、そんな気持ちを生徒が感じてくれるようになると、授業を行う際の教室内の雰囲気明らかに違ってくる。こうなると、教師は磨いた指導技術をさらに効果的に発揮することができ、授業アンケートの結果にも良い影響が出てくるようになる。以下、私が意識した具体的なものを2つ挙げてみたいと思う。

①授業中・授業外での声がけ

生徒にとって教師から個別に声を掛けられたことは、いい意味でも悪い意味でも心に響く可能性が高いのではないだろうか。このようなことは、頭では理解してはいるものの、案外できないものである。私は、授業改善の一環としてこのことを強く意識し、タイミングを見計らっては、小さなことでも声掛けを積極的に行った。特に、生徒が授業内容に関して質問に来てくれたときは、ラポール構築の最大のチャンスであり、今まで以上に熱意を持って懇切丁寧に対応した。例えば、Google Classroomを活用し、生徒1名に対し、次のようなメッセージを送ったこともある。

「〇〇君、いつも一生懸命授業に取り組んでくれてありがとう。今日の休み時間にしてくれた質問に対する回答をしますね。(以下は、質問に対する解説・説明)」

②生徒の呼び方

読者の先生方は、生徒のことをどのように呼んでおられるだろうか。名字で呼んだり、名字に「君」

や「さん」を付けて呼んだりするのが一般的であると思うが、中には、「あなた」・「君」・「おまえ」などと呼ぶ先生もいらっしゃるかもしれない。以前は、私は、生徒を名字で呼んできた。しかし、2020年4月の新型コロナウイルスによる臨時休校中に高校1年生に対して初めて行う面談がオンライン上であったので、呼び捨てには抵抗があり、自然と〇〇君や〇〇さんと呼ぶことになった。それが、対面式になってからも続き、他クラスの授業でも同様に〇〇君や〇〇さんと呼ぶようになった。こんなちょっとしたことであるが、自分をモニタリングしてみると、生徒に対して優しい気持ちで話したり授業をしたりしていることに気づいた。これは、単に年齢や経験を重ね、自分自身が寛容になったこともあるかもしれないが、〇〇君や〇〇さんと呼ぶようになったことが少なからず自分の授業態度に影響を及ぼしているのではないかと感じている。それを証拠に、授業アンケートの自由記述欄に勤続18年目で初めて「優しい」とすべてのクラスで書かれることになった。

おわりに

私たち教師はよく、生徒の定期考査や模擬試験の結果を返却する際、「結果だけにとらわれず、何ができ、何ができなかったかを知り、次につなげることが大切だ」と語ることが多い。このことを教師が受け取る授業アンケート結果に置き換えてみてはいかがだろうか。時には、生徒からの辛辣なコメントにうちのめされることもあろう。しかし、授業アンケートの生徒のコメントはまた、教師の授業を改善するヒントや力も持っている。2020年に爆発的人气となったテレビアニメの挿入歌の歌詞の一部を借りれば、私たち教師には「どんなにうちのめされても守るものがある」のではないだろうか。

参考文献

- 土屋進一(2020a)。「緊急事態宣言下で英語授業はどのようにおこなわれたか」『英語教育 8月号』、大修館書店。
 土屋進一(2020b)。「双方向のやり取りを活かした高校でのオンライン授業」『英語教育 10月号別冊』、大修館書店。